

令和5年度実施

○「わたしの避難計画」の普及

- ・「わたしの避難計画」の普及を図るため、動画の公開やポスターの掲示、啓発活動等を実施。
- ・「わたしの避難計画」を自力で作成できない方をサポートする「わたひな普及員」を養成する講座を実施し、更なる普及を促進。



わたしの避難計画(例1)

わたしの避難計画(例2)

○防災アプリ「静岡県防災」による自主防災体制の強化

- ・自主防災組織の点検及び現状把握を目的とした防災カルテや、災害の情報や避難所の情報を自主防災組織からいち早く得ることを目的とした災害状況投稿機能を有する「見える化機能」の自主防災組織への周知・説明を積極的に行った。



防災アプリ「静岡県防災」

令和6年度予定

○「わたしの避難計画」の普及

- ・市町と連携し引き続き普及を図っていく。また、普及が円滑に進むよう地域での普及人材の育成を図るとともに、周知啓発を実施していく。

○防災アプリ「静岡県防災」による自主防災体制の強化

- ・避難所支援機能等の普及やシステム改良により利便性の向上を図っていく。

○風水害対処訓練の実施

- ・東部地域局や市町と連携した風水害対処訓練を実施し、関係機関との連絡調整、迅速かつ的確な情報伝達等について確認を実施していく。



令和5年度の訓練の様子

令和5年度・令和6年度の主な取組（静岡県東部地域局）

令和5年度実施

○住民の防災意識向上のための取組

風水害に関する防災教育の推進

管内の高等学校等を対象に防災出前講座を実施しており、令和5年度については、94回（富士土木管内で17回）の出前講座を実施した。

講座ではハザードマップの見方や市町が発令する避難情報の意味の解説など、風水害に関する内容なども説明している。



市町風水害危機管理演習の実施

管内市町の防災担当職員を対象に、防災情報の取扱いや避難指示等の発令判断など防災対応力の向上を目的に演習を実施した。

＜演習＞（令和5年6月6日）

参加者：12市町22名＜演習＞



○逃げ遅れゼロのための取組

地域住民に対する意識啓発と防災指導の実施

地域住民の防災意識向上を目標に、風水害対応イメージTEN研修を実施し、風水害への備えと対応力の強化を図った。

＜研修＞

計5回開催 参加者：計90名



令和6年度予定

○住民の防災意識向上のための取組

風水害に関する防災教育の推進

令和6年度についても、児童生徒や教員を対象に、防災について理解し、日頃の備えや適切な判断ができるよう、防災出前講座を実施する。講座の内容がより効果的になるよう、防災講話に加えて、DIG等のグループ演習を取り入れる。

市町風水害危機管理演習の実施

令和6年度についても、訓練や演習を通じて、市町の防災対応力強化を図っていく。

地域における風水害対策の強化に向け、当局が作成した「風水害対応イメージTEN」を活用し、風水害の時系列を意識した演習を実施する。

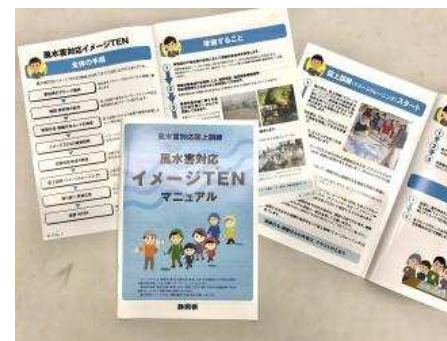
＜演習＞（令和6年6月21日）

参加者：10市町18名＜演習＞

○逃げ遅れゼロのための取組

地域住民に対する意識啓発と防災指導の実施

地域防災力を強化するため、住民一人一人の防災意識向上と避難行動の迅速化を図り、地域防災指導員等を対象に風水害への備えとその対応について継続的な啓発、指導を行っていく。令和6年度も引き続き、「風水害対応イメージTEN」研修の実施を検討する。



令和5年度・令和6年度の主な取組（静岡県健康福祉部）

令和5年度実施

○逃げ遅れゼロのための取組

●社会福祉法人等の指導監査

- ・社会福祉法等に基づく指導監査において、防災管理体制や防災訓練の実施状況をチェックリストを活用し、書面及び電話で確認、指導

●高齢者福祉施設の災害対応マニュアルの改訂

- ・「高齢者福祉施設における災害対応マニュアル」について、市町担当課・連絡先等の修正を反映
- ・県が開催する「市町介護保険事業者指導担当者研修会」等で、施設における非常災害対策に重点をおき、本マニュアルを活用

●社会福祉施設等職員防災研修会

- ・施設職員の防災意識の向上や知識の習得を図り、施設の防災対策力を高めることを目的とし、施設職員向けの研修を動画で配信

●避難行動要支援者の避難支援対策等に係る取組支援

- ・危機管理部、交通基盤部と連携して、市町防災、福祉担当職員に対して意見交換会を実施
- ・市町職員向け個別避難計画作成研修会の実施

●浸水区域内要配慮者利用施設の支援

- ・洪水浸水想定区域内、土砂災害警戒区域内に立地する社会福祉施設等が行う避難確保計画の策定を指導



社会福祉施設等職員防災研修会（動画配信）



避難支援対策等に係る意見交換会

令和6年度予定

○逃げ遅れゼロのための取組

●社会福祉法人等の指導監査（継続）

- ・社会福祉法等に基づく指導監査において、防災管理体制や防災訓練の実施状況をチェックリストを活用し、確認、指導

●高齢者福祉施設の災害対応マニュアルの改訂（継続）

- ・「高齢者福祉施設における災害対応マニュアル」について、市町担当課・連絡先等の修正を反映。
- ・県が開催する「市町介護保険事業者指導担当者研修会」等で、施設における非常災害対策について啓発

●社会福祉施設等職員防災研修会（継続）

- ・施設職員の防災意識の向上や知識の習得を図り、施設の防災対策力を高めることを目的とし、施設職員向けの研修を実施
- 【研修内容】
要配慮者利用施設の避難訓練についての説明、地震防災アドバイザーによる講演 等

●避難行動要支援者の避難支援対策等に係る取組支援（継続）

- ・危機管理部、交通基盤部と連携して、市町防災、福祉担当職員に対して意見交換会を実施
- ・市町職員・福祉専門職向け個別避難計画作成研修会の実施

●浸水区域内要配慮者利用施設等の支援（継続）

- ・洪水浸水想定区域内、土砂災害警戒区域内に立地する社会福祉施設等が行う避難確保計画の策定を指導

令和5年度実施

○水害リスク情報等の共有に向けた取組

○想定最大規模降雨を対象として洪水浸水想定区域図の作成・公表

- ・洪水予報河川、水位周知河川以外の河川の洪水浸水想定区域図を作成・公表により、水害リスク情報の空白域を解消するとともに、市町が作成するハザードマップへの反映を支援していく。

令和6年3月29日公表

富士土木事務所管内：廻沢川など11河川

※富士土木事務所管内における対象河川の洪水浸水想定区域図は、すべて公表済み

○避難行動を促す取組

○出前講座などを活用した住民向けの防災情報の説明会・訓練の充実

- ・県庁見学会等を活用し、水害リスクや情報の入手方法等を説明した。
 - ・市町防災職員向けの研修会、意見交換会を開催した。
 - ・市町が開催する研修会・説明会において、水害リスク情報等について説明する講師として職員を派遣した。
- （令和5年5月21日の静岡市水防団説明会に参加し、サイポスレーダーの使い方等を説明）
- ・『流域治水』の取組を地域の皆様に御理解いただくとともにさらに強力に推進するため、「筆文字ロゴ」を使用し、流域治水の普及・啓発に努めた。



（令和5年度県庁見学会の様子）

令和6年度予定

○水害リスク情報等の共有に向けた取組

○洪水予報河川及び水位周知河川以外の

その他河川（対象外河川除く）における洪水浸水想定区域の指定

- ・富士土木事務所管内における対象河川すべての洪水浸水想定区域図の作成・公表が令和5年度末に完了したため、水防法に基づく区域の指定を実施していく。また、区域指定により義務化される市町のハザードマップ作成を支援していく。

○避難行動を促す取組

○出前講座などを活用した住民向けの防災情報の説明会・訓練の充実

- ・激甚化・頻発化する豪雨に対し、市町と共に、的確な水防業務を目指して水防法等の勉強会を継続実施する。（令和5年12月22日実施）



（令和5年度勉強会の様子）

- ・流域治水の取組の一つとして、防災教育の教材『しぞ〜か防災かるた（水編）』の作成を実施する。住民に水災害を自分事として捉えてもらうため、学生や行政等が協働するワークショップを開催し、住民目線のかかるたの句を題材に盛り込み作成する。



（ワークショップの様子とかかるた完成イメージ）

- ・令和6年（2024年）は、昭和49年（1974年）7月の七夕豪雨災害から50年の節目となる。この機会に水災害を自分事として捉えてもらうことを目的に流域治水シンポジウムやパネル展を県内で実施。（シンポジウムは令和6年7月6日開催）

○確実な避難指示の発令に向けた取組

○土砂災害に関する市町実務者研修の実施

- ・土砂災害の危険度分布が確認できる県や気象庁のウェブサイトなどを活用した実践的な研修を市町の防災・砂防担当職員に対して実施する。

令和5年度・令和6年度の主な取組（静岡県富士土木事務所）

令和5年度実施

○水害リスク情報等の共有に向けた取組

●最大クラスの洪水を対象とした洪水浸水想定区域図の作成・公表及び洪水浸水想定区域の指定

・水位周知河川以外のその他河川11河川について、洪水浸水想定区域図を作成し、令和6年3月に公表。

（富士市・富士宮市内における全ての県管理河川の洪水浸水想定区域図を公表）

●土砂災害警戒区域等の確認

・新たな土砂災害警戒区域（土石流・急傾斜）指定候補箇所における砂防基盤図を作成。※候補箇所は3次元点群データの活用により抽出。

●土砂災害警戒区域表示板等の設置

・土砂災害警戒区域標識を富士宮市内77箇所を設置。



○流域の市町と河川管理者が一体となった総合的な治水対策の推進

●河川整備計画等に基づく治水対策の着実な実施

・小潤井川及び江尾江川にて、河川整備計画に基づく河道拡幅工事を実施。



令和6年度予定

○水害リスク情報等の共有に向けた取組

●最大クラスの洪水を対象とした洪水浸水想定区域図の作成・公表及び洪水浸水想定区域の指定

・今後、洪水浸水想定区域の指定に向け、関係機関と調整予定。

●土砂災害警戒区域等の確認

・事前調査により、指定候補箇所の優先順位を設定。

●土砂災害警戒区域表示板等の設置

・土砂災害警戒区域標識の設置を推進（富士市内、富士宮市内）。

○流域の市町と河川管理者が一体となった総合的な治水対策の推進

●河川整備計画等に基づく治水対策の着実な実施

・小潤井川では、柳田橋（富士市道）の架け替え工事を実施。

・江尾江川では、河川整備計画に基づく築堤・掘削工事や用地補償を実施。

●水田等流域の貯留機能の保全、確保等の流出抑制対策の推進

・「水災害対策プラン」に基づき、引き続き江尾江川の一次拡幅工事や小潤井川流域における貯留施設の整備を進める。

・岳南地域流域治水協議会において、「水災害対策プラン」に基づく対策の進捗管理や関係機関の情報共有を行う。

●水田等流域の貯留機能の保全、確保等の流出抑制対策の推進

・和田川・小潤井川・伝法沢川流域及び江尾江川流域において、「水災害対策プラン」に基づく流域治水対策を推進。



令和5年度・令和6年度の主な取組（富士市）

令和5年度実施

○住民の防災意識向上のための取組

●住民向けの防災啓発事業の実施



作成済みの「富士川・潤井川・沼川・小潤井川逃げどきマップ」等を用いた防災講座を行い、災害リスクや避難に関する正しい知識及び情報収集の方法等を周知した。

また、富士市防災セミナーにおいては各世帯が、自宅の災害リスクに応じた避難方法・タイミングを決め、マイ・タイムラインを作成するための周知や支援を行った。

●自主防災組織、学校、事業所等を対象に防災啓発事業を実施



小・中学校の防災教育にて風水害をテーマにした講義を実施。
逃げどきマップの紹介や、大雨時の情報収集などについて説明した。



デイサービスセンター（要配慮者利用施設）に対して、施設が作成した避難確保計画の内容を確認、改善点の提案等を行った。

令和6年度予定

○住民の防災意識向上のための取組

●住民向けの防災啓発事業の実施

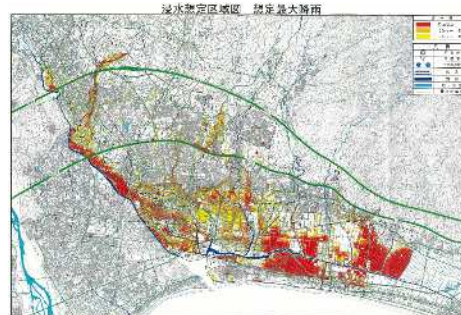
- ・（継続）富士市防災セミナーや、防災啓発イベント「ふじBousai2023」における風水害のリスク及び避難方法等の啓発を実施
 - ・（継続）広報ふじに風水害の啓発用ページを掲載
 - ・（新規）防災アプリ「防災ふじ」の周知及び啓発を実施
- #### ●自主防災組織、学校、事業所等を対象に防災啓発事業を実施
- ・（継続）新たな要配慮者利用施設における避難確保計画作成及び避難訓練の実施を支援
 - ・（継続）市政いきいき講座により風水害に係る防災講座の実施

○社会経済被害の最小化のための取組

- （継続）河川等の改修（富士早川等）
- （継続）水害に伴う浸水想定図等の周知
- （継続）水防訓練の実施

○社会経済被害の最小化のための取組

- 水害に伴う浸水想定区域図等の周知
- 水防訓練の実施



令和5年度・令和6年度の主な取組（富士宮市）

令和5年度実施

○総合的な治水対策の推進

- 大雨時における治水対策・護岸対策及び監視体制の強化を図るためのソフト対策の要望を行った。



国土交通省・國場国土交通副大臣要望

○洪水氾濫による被害軽減のための取組

- 富士宮市水防協議会を実施し、富士宮市水防計画を定めると共に、関係機関との情報共有を図る。



○住民の防災意識向上のための取組

- 市内の小・中学校や高齢者等を対象に富士山まちづくり出前講座を実施。令和5年度は、26回実施した。

また、県及び富士土木事務所に協力をいただき、市内大中里地区をモデル地区として、土砂災害訓練を行った。



令和6年度予定

○総合的な治水対策の推進

- 大雨時における治水対策・護岸対策及び監視体制の強化を図るためのソフト対策の要望を行う。



中部地方整備局要望

○洪水氾濫による被害軽減のための取組

- 水防計画書の修正を行い、水位周知河川についての記載を追加、公表に向けて、静岡県と協議調整を行い、周知を図っていく。



○住民の防災意識向上のための取組

- 市内の小・中学校や高齢者等を対象に富士山まちづくり出前講座を実施する。

また、昨年度同様、県などに協力をいただき、市内大中里地区をモデル地区として、土砂災害訓練を行う。

令和5年度・令和6年度の主な取組（甲府河川国道事務所）

令和5年度実施

○「富士川流域における減災対策協議会（幹事会）」をWEBにて開催

- ・実施日：令和5年4月27日
- ・決議結果：全構成機関より、減災への取組みとフォローアップ
昨年度台風を踏まえた対策・対応等に関する議決内容
の承認を得た。
※減災対策協議会については書面議決によって実施
(令和5年6月9日)

○重要水防箇所等の合同巡視について

- ・例年実施している水防連絡部会は、開催を中止。
- ・市町職員や県職員の方々と現地確認を行い、洪水時の要注意箇所を共有するもの。
- ・直近の実施日：令和3年6月7日

○富士川水防講習会、災害対策機器操作講習会開催

- ・例年実施している「水防講習会」や「災害機器操作講習会」については、令和5年6月23日に68名の参加者にて富士川右岸河川敷内（山梨県南巨摩郡南部町南部地先）にて開催した。



開会式の様子



照明車



土のう作り体験

令和6年度実施

富士川水系における減災対策協議会を開催

- 減災対策協議会（幹事会）
・令和6年6月下旬 WEBにて実施予定
- 減災対策協議会（本会議）
・令和6年7月中旬 WEBにて実施予定

富士川水防講習会・災害対策用機器操作講習会を開催

- 富士川水防講習会
・令和6年7月下旬 実施予定
- 災害対策用機器操作講習会
・令和6年7月中旬 実施予定

令和5年度・令和6年度の主な取組（富士砂防事務所）

令和5年度実施

○出前講座等の啓発活動

実施日：令和5年10月17日

（富士宮市立上野中学校）ほか



○富士市・富士宮市防災訓練へのリエゾン参加

実施日：令和5年5月28日

実施内容：富士市・富士宮市の防災訓練に富士砂防事務所から支援と情報共有を行う目的でリエゾン（情報連絡員）を派遣し、機器設営・情報連絡を実施。



令和6年度予定

○出前講座等の啓発活動

実施日：令和6年6月8日

（富士山こどもの国）ほか



○リエゾン派遣訓練

開催予定時期：令和6年9月予定（富士市、富士宮市）

令和5年度・令和6年度の主な取組（静岡地方気象台）

令和5年度実施

○地域住民の防災意識向上のための取組

→静岡県の自治体等にワークショップや出前講座等の講演を通して、防災意識向上のための普及・啓発を行った。

下の写真は昨年度に行ったもので、左が中学校との気象庁ワークショップの様子で、右が自治体との気象防災ワークショップの様子である。



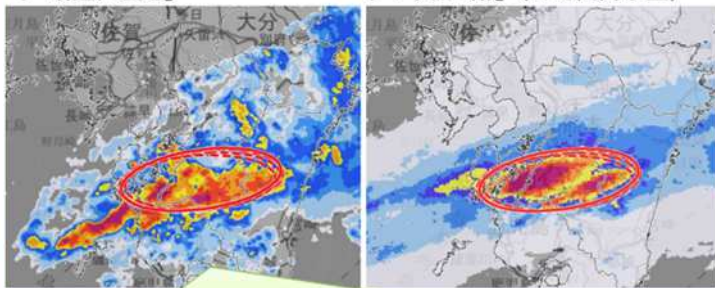
○迅速かつ的確な避難行動のための取組

→顕著な大雨に関する気象情報の新運用とその情報を補足する図情報の更新が行われたので、静岡県の自治体等に、キキクルに加えて、その使い方を周知した。

【気象庁ホームページにおける表示例】

◆「雨雲の動き」

◆「今後の雨」（3時間降水量）



ある時刻（現在時刻）に解析された線状降水帯の雨域を実線の楕円で、現在時刻から10～30分先に解析された線状降水帯の雨域を破線の楕円で表示。

大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域（現在時刻の解析）

大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域（10～30分先の解析）

令和6年度予定

○地域住民の防災意識向上のための取組

→引き続き、静岡県の自治体等にワークショップや出前講座等の講演を通して、防災意識向上のための普及・啓発を行う。

○迅速かつ的確な避難行動のための取組



→2024年3月5日の「第11世代数値解析予報システム」の導入により、2023年3月に導入された「線状降水帯予測スーパーコンピュータ」と合わせて更新前のスーパーコンピュータの約4倍の計算能力になった。これにより予報の精度が向上し、気象情報の改善が行われた。

→令和6年度は線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの情報が、これまでは地方単位で呼びかけていたものを、令和6年5月27日から府県単位で呼びかけることになった。また、引き続き、静岡県の自治体等に、キキクルに加えて、その使い方を周知したい。



東海地方



静岡県

対象地域を
絞り込んで発表

大雨に関する静岡県気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇時〇〇分 静岡地方気象台発表
<見出し>

東海地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>
…（中略）…

大雨に関する静岡県気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇時〇〇分 静岡地方気象台発表
<見出し>

静岡県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>
…（中略）…